

散策会報告

初夏のような陽気となった6月16日、恒例の初雁会春季散策会では、大宮氷川神社を訪れました。

参加者一行は川越駅を出発、大宮駅を經由し、東武アーバンパークライン北大宮駅にて下車しました。閑静な住宅街を抜けると鎮守の壮が姿を現しました。

氷川神社は2400年以上前、第5代孝昭天皇の御代の創立と伝えられ、武蔵の国の一宮として歴代の武家から信仰を集めました。明治元年、明治天皇が東京に遷都され、氷川神社を武蔵国の鎮守勅祭の社と定める勅書を発しました。同年10月28日に明治天皇は同社に行幸、御自ら祭儀を執り行われました。

そうした由緒ある社にて、今回正式参拝をする機会に恵まれました。正装に身を包んだ一行17名は拝殿に進み、各自席に着きました。鈴払いを受けたのち、新渡戸権禰宜より祝詞が奏上され、代表の3名より玉串を奉納し、二拝二拍手一拝の作法にて拝礼をいたしました。代表の加島事務局長による記帳の上、参加者は各々お神酒を受け、正式参拝は終了しました。

拝殿前にて記念撮影を行った後、加藤権禰宜より境内をご案内頂きました。境内の神池にそそぐ湧き水の「蛇の池」、酒造の神をまつる松尾神社に奉納酒樽の由来、池の中に浮かぶ宗像神社とめぐり、三の鳥居をくぐり参道へ進みました。

その参道西脇に設置されているのが「明治天皇氷川神社行幸絵巻」です。長さ13メートルにもなるこの絵巻は、前述の行幸の様子を描いたもので、天皇の乗り物「鳳輦（ほうれん）

を中心に騎馬重臣、鉄砲隊、鼓笛隊等々、540人にも及ぶ人々が詳細に生き生きと描かれており、まさに壮観です。その中には大久保利通、西郷隆盛らも描かれており、皆さんもしばし絵巻に見入っていました。実はこの絵巻、後に川越氷川神社の宮司となる山田衛居（もりい）が制作したもので、現在の山田禎久宮司の曾祖父にあたる方だと知り驚きました。

最後に勅使斎館を特別に案内頂きました。こちらは例祭において天皇陛下のお使いである勅使が潔斎し装束をお召しになる建物で、現在は文化財指定されているため、一般公開されていない建物です。その前には大正天皇手植えの松を見ることができました。

大宮氷川神社を後にして、一行は大宮駅前「いかの墨」へ移動し、昼食懇親会にて渴いた喉を潤しました。今回は在京初雁会から横溝会長、澤田副会長もご参加いただき、また初参加の方もおられて、大いに盛り上がり親交を深めることができました。

今回の散策会に関しては、川越氷川神社の山田宮司に特別なご配慮を頂戴し、正式参拝及びご案内を頂くことができたことを申し添えておきます。

川越初雁会では、こうした校友や川越の「縁」を活かした散策会を年2回開催しております。若い新しい会員の参加も増えておりますので、散策会を通して大いに交流を深めましょう。

事務局 原 宗康（高41回）